して行く方法もあります。

病院の図書室ですから病気に関することに重点を置いて、恋愛小説などは控えめにしていただければ。

吉田　基本的に病院ですから病気の図書室です。そこにコピー機を置くというのは大変大事な考えですね。検討してみます。

古澤　すごくいいね。

谷川　コピー機ですけどね。市役所の図書館は白黒で1枚20円です。ところがコンビニに行くと10円です。百円ショップは5円です。それからいくと日赤は7円50銭ぐらいが丁度いい。

吉田　別に利益をとるつもりはないですから。いいことですね。わかりました。

阿部　私は夫の病気のことで、希望をといいますか、お願いしたいということがあるんです。

夫は幼少の時から低肺者で、それからずっと現在に至っていますが、平成7年に呼吸不全になり、こちらの救急救命センターに入れていただいて、1週間、ICUでお世話になりました。

そのあと器官切開しまして自宅呼吸器使用者第一号だったと聞いています。

その後、12・3年ごろでしたか呼吸器内科の先生方が一度にお辞めになった時からその系統の市内のクリニックさんに回されたんです。それ以後、ずっと、その科だけは薬も診察も全部その病院のお世話になっています。

その外の科はこちらの病院にお世話になっているのですけれど、例えば肺炎で緊急入院なんかする場合、そのクリニックさんは入院施設がございませんので当然日赤さんの方でお世話になるかと思うんですが、そういった場合ずっとお世話になっていたクリニックさんと、日赤さんとの連携プレイがうまく機能をはたしてくれるのかどうか、そういったことを家で話しをしてます。病弱なものですから心配なんです。

吉田　それはとても大事なことでして、先ほどの話と関係ありますけれど、うちの新患患者の7割は他の医療機関からの紹介患者です。二次と三次の救急医療と高度専門医療とがうちの病院の地域での役目なのです。それで二次、三次の救急救命医療と言うのは他の病院から紹介されて、今言ったような肺炎であったり、呼吸不全であったりという患者さんが対象になるわけですよ。ですから、今かかられている先生から紹介があった場合、断ることはまずないです。

平林　私がこれから言いたいことは、支援する会の中でも唯一肺ガンの手術経験者ということなもんですから。実は私、手術して2年半経過して、ペット検査や診療を1年に1回やっていて、今のところ異常なしできています。

術後の診療が北見の病院では対応が出来ず、時間と費用を掛けて、旭川の厚生病院でお世話になって居ります。私の病気のことはこの会の「オホーツクの風」に詳しく投稿をしています。

たまたま、私より一年後に旭川医大で肺ガンの手術をした友人が術後の診療は地元の小林病院で出来る、と聞いたものですから、お手元にあると思いますが、小林病院と旭川医大との医療連携の実情というような堅苦しい言葉を使って書いています。その中に「外来診療担当医一覧」を付けていますが、友人の聞き取りと合わせて判断しますと旭川医大で手術した人の事後の診療は小林病院と指定されていて、そこで毎月、木、金の指定日に診て頂いた、と云うことです。このような連携が日赤では具体化出来るのかどうか。お伺い致します。

吉田　これは少し詳しく話させていただきますが、実はうちの病院と地域の病院と大学病院との関係の話なんですよ。

ほとんどすべての病院は大学の医局がサポートしているんです。例えば、うちの病院はおおむね北大、札幌医大、旭川医大、昭和大学の4大学です。

ご承知の通り呼吸器と心臓の外科手術は、道立病院がここの地域を担っていたんです。長い間、道立病院が呼吸器や結核もね。それはお互い両方が住み分けしていた。

小林病院はこれを見れば本州の色んな大学から来ているんだと思います。東京ですからですとなかなか大変ですね、行ったり来たりするのがね。

これは地域で最大の問題点です。呼吸器、肺も含めて呼吸器科外科をどうするかとゆうことです。

で、非常に問題なのは呼吸器の専門医が少ないんです。全国的全道的に。

呼吸器科で何故こうゆう問題になっているかというと、一つはタバコが関係しているんです。肺の疾患で喘息、肺ガンなどはずっと様子をみないといけないです、また、高齢化社会になってきまして患者はずっと増えているんですよ。それと内科のなかでは昔の言いかたで三Kの一つなんですよ、「大変きつい診療科」そうゆうのが呼吸器科なんです。突然、喀血したりそうすると手当てをしないとい

（4面につづく）